



第1回島根県当事者連絡会総会においての会長のあいさつ

Aさん

みなさん、こんにちは

わたくしは、今回島根県精神当事者連絡会の会長になりました A です。松江のアクティヴあじさいの会に入っております。

現在、松江さくら会共同作業所の職員をしております。

私自身も病院に通っている当事者であります。

みなさんに、言いたいのは、精神障害者になったことに負けることなく、自分の力、プラス当事者同士の切磋琢磨、又病院の先生の方々、関係者の方々、又家族の方々の協力を得て、みなさま方が一人残らず幸せになれるよう、新しい風を当事者からとありますように、この会の発足を機に一致団結をして全国一、暮らしやすい町、市、県にしていけるよう一歩一歩前進していきましょう。以上です。

ありがとうございました。今後ともご協力お願いいたします。

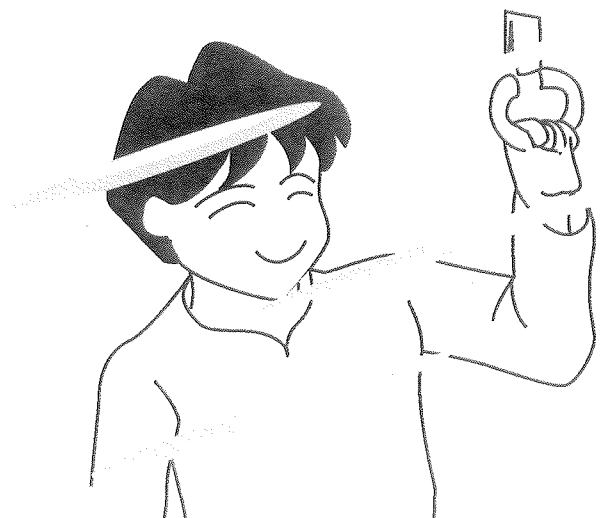
当事者から新しい風を起こそう！

島根県当事者連絡会総会が平成18年5月27日社会福祉法人亀の子ライフサポートセンターホールで行われました。2年間準備をしてこられた準備委員会の方々、大変御苦労様でした。あらためて敬意を表します。

又、来賓の方々にも、準備委員会の方々に適切なアドバイスをされた事を聞き感謝しておれます。これからもよろしく願います。

今後の課題として、会の運営をいかに進めていくかが、ポイントとなり、役員のリーダーシップに期待しております。

→



昨年、我々三瓶友の会では、バス会社に、障害者割引（身体と療育のみ半額サービス）が、精神障害者にも適応されるよう、請願書を作っていたところ当事者連絡会を作る動きがあると知り、請願書は先送りしております。県内の当事者の力を借りて、バス会社に受理されるのではないかと考えたのです。是非とも願います。当事者連絡会に期待しております。当事者から新しい風を起こしましょう。

体験談を聞いて

誰もが経験する悩みを皆が持っていた。一人で抱え込んでしまった結果である。信頼している人に打ち明けることが、解決への道であると思う。もう少し、職員と当事者との間を近づけることが大切だ。

私の生活を振り返ると、お金の管理がない。しかし、拘束をしないやり方だったからこそ、今の生活があるのだとも思う。計算された生活や生き方は、立派な考えである。計算のない日々を過ごした事で、「やはり生活設計はとても大切である。」という事を、痛切に感じる事が出来た。

私の職場には、自分を支える物がある。それを大切にしないと、悪い結果になっていく。しかし、職場では褒めてばかりしてくれない。悪いことを多く言われ、「お前はバカに違いない」とまで言われることもある。とても疲れてしまう。疲れるとろくな事がない。問題を解決し、ストレスの発散方法を知る事が重要である。私の場合はスポーツであった。好きな事をして、しかもストレスを解消できる。とても楽しい。強い意志を持ち、夢や希望を持ち続ける事が私の生きる力となっていく。

最後に、私の好きな言葉...

「和」 「努力」

島根県精神当事者連絡総会に参加させてもらい、みなさん、いろんな経験をしておられ自分自身励まされました。

この当事者連絡会がいろいろな人の手で、これから、もりあげていって一人でも多くの人が参加できるといいと思います。

精神的な病気は、なった人じゃないとわからないことが、たくさんあると思います。

私も、ふたば会に参加すると、どこか、気持ちが楽になるというか、楽しい。気持ちが落ち込んでいるとき、同じ病気の人と話すだけで何か心の中にあった悩み事が、なぜかわかってのもらえたりする。

当事者連絡会でいろいろな、計画を立ててもらって、いろんな人達と友達になりたいと思います。

ひとりで悩んでいる人が、たくさんおられると思います。

私のように、うつ病で、自殺を考えたり、そんな人をひとりでもこの当事者連絡会で、励ましてあげられるといいですね。

島根にこのような会ができたこと本当に良かったと思います。

総会には、たくさんの方々が参加しておられびっくりしました。

雨も降っていたのに、ひとりひとりの人の気持ちがひとつになっていたようでした。

これからも、病気と仲よく付き合いながらいろいろな人の出会いを大切にして、私自身、他の人をささえてあげたり、悩みを聞いてあげたり、励ましてあげたり、いろんなことを他の人にできたらいいなと思っています。